

力を合わせて無事突破！

飯豊 胎内川坂上沢左俣

栗原 他

【日時】 2007年8月12日～15日

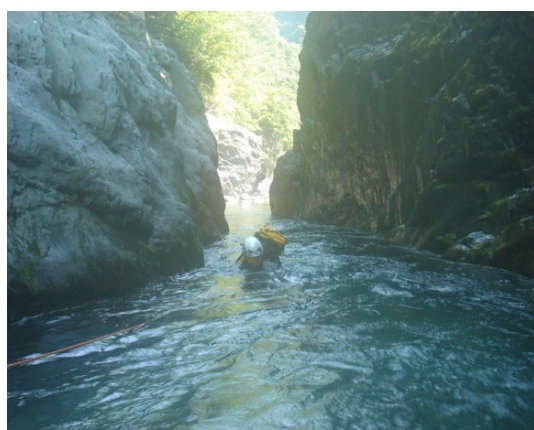
【メンバー】 栗原L 浅井 高柳 小川

このお盆は是非飯豊の沢に行きたいと思っていた。が、土曜出勤の身、ぼんやりしていると飯豊どころか入れるパーティがなくなってしまう。そこで自分で胎内川を計画し、メンバーを集めた。幸いにしてメンバーもそろい、入念な打ち合わせの末、胎内川坂上沢に挑んだ。(栗原 記)

【8月12日】 晴れ (高柳 記)

中条駅前の板張りスペースでごろ寝の一夜を過ごし、いよいよ入渓である。4:40に予約したタクシーに乗り胎内ヒュッテへ。運転手さんの話によれば、ここ暫く雨は降っていないとのこと。今日はお盆休み初日の日曜日のため、工事用トンネルから入るのは無理かもしれないと判断して、アゲマイノカッチ経由で入渓することにした。胎内ヒュッテ脇のキャンプ場下からダムバックウォーターにドボン。最初から少々泳ぎであるが、全く寒くない。登山道と化したアゲマイノカッチを登っていき、1時間ほどで頂上。ここでトレールを見失ってしまったが、方向は間違えないのでルンゼを下る。たいした藪もなく檜の木沢に出た。アブもびっくりするくらい居ないし、水量も少ない。3人パーティとすれ違いますが彼らは檜の木沢遡行とのこと。結局沢中で出会ったのは彼らだけであった。15分ほどで胎内川の本流と合流すればいよいよである。

時折胸までの渡渉があるが困難さはなく、歩を進めていく。ゴルジュの幅がいつそう狭まったニセ浦島では、まず浅井さんが泳いでトライするも水量に阻まれ戻ってくる。次は高柳。あと少しでというところで断念。栗原さんが左岸のバンドを偵察した後、最後には小川君が突破。ザイルを引いてもらって後続は泳ぐ。浦島は薬研沢の出合だが、なんだか単なる急流の浅瀬といった感じで、悪場の雰囲気もない。膝下程度の水である。高柳・小川で釣りに行くも全くあたりなし。



【ニセ浦島のゴルジュ】

これを過ぎれば次第に河原が出てくるようになり、明るい河床と白い岩がきらきら眩しく、夏の沢の美しさを堪能する。池平峰からのトレースもはっきりしているのを確認



したら、団子河原。いたることに幕営可能だが、もう少し歩を進めたいので、西俣沢出合まで進む。釣りながらゆっくり行くが魚影なし。西俣沢を少しだけ入ったところに良いテン場を発見し、タープを張る。西俣沢で小川君が岩魚を1匹ゲットしてくれたので、刺身・岩魚汁・骨酒を堪能できた。

【8月13日】晴れ（浅井 記）

5:50、出発。今日は本源沢出合を越えて坂上沢に入り、作四郎沢出合付近まで進むのが目標。情報が豊富な東俣沢の核心部をいかにスピーディに越えられるかが前半のポイントとなる。

東俣沢に入るとすぐゴルジュとなり、最初の2m滝はシャワーを豪快に浴びながら突っ張りで越える。次の魚止の滝10mは左壁を快適に直登。その先は上越の沢のような岩盤が発達した明るいゴルジュの中にきれいな小滝が続き、気分よく進む。やがて写真でお馴染みの「堰堤状の滝」7mが現れる(6:30)。木下さんから「右から簡単に巻けるよ」と聞いていたので、まず高巻きのルートを探るが、出だしが急で、そんなに簡単には巻けそうもない。今日は他パーティの姿も見えず、順番待ちもないので、直登した方が早いのではという意見もあり、登る気まんまんの小川君が空身でリードに挑戦。定石通り左岸の凹角から華麗なムーブで登りきった。一步のスタンスが遠く、ザックを背負って登るのは厳しそうなので、後続も全員空身で登り荷揚げした。次は「壊れた堰堤状の滝」6m。ここは右壁からトラバース気味に越える。途中のいやらしい一步は残置シュリングのお世話になる。次は写真でも見ていた12m直瀑。ここも定石通り右岸から高巻き、灌木帯をトラバース。懸垂30mで沢床に下りた。次は奥秩父東沢のホラの貝のような岩が洞窟状にえぐれた深いゴルジュに突入(8:45)。深い淵の先は倒木がかかった6mの滝になっている。ここは小川君が泳いで取り付き、水流右をシャワーで越えた。後続はお助けにつかまりながら突破。どうやらここが「逆くの字ゴルジュ」で、まるで「胎内潜り」のようだと称された所らしい。なかなか面白い所だった。

その先はまた両岸が切り立ったゴルジュとなり、深い釜を従えた4m直瀑に行く手を阻まれる。これが「龍の棲む」と言われる釜らしい。この滝の巻きが本日前半の核心部。そのせいか一種異様な緊迫感に包まれる。慎重に高巻きルートを探るが、残置らしきものは一切見えない。ここは栗原さんが空身で左上するバンドから草付帯に這い上がり、灌木帯に抜けてロープをフィックス。後続はザックを背負って登ったが、出だしの足場がぬめっており、かなり悪いピッチだった。二番手の私が登り終え、先のルートを偵察すべく登りかけた時、大きな石を落としてしまい、一瞬ひやとしたが、幸い事無きを得た。ラストの小川君は栗原さんのザックの荷揚げをうまくフォローしながら登ってくれた。全員が登った所で、灌木帯を少し水平に進むと、残置シュリングの束がかかった木があったので、ここで懸垂のセットをする。沢床までは見えなかったが、40mロープ二本で十分足りるだろうと思い、栗原さんが先に下りる。ところがしばらくすると「ピッピッピ」という笛の合図。声が通らないので状況がつかめなかったが、どうやらピン

ちに陥っている様子。とりあえず二番手の小川君が様子を見ながら下りたが、しばらくして「ここはダメなので、ロープをセットし直して！」という栗原さんの声が聞こえた。二人は何とか沢に下りたようなので、私と高柳さんでロープを引き上げ回収し、もう少し上流側の灌木まで移動。今度は沢床が見える所からロープをセットし直して懸垂で下りた。結局この高巻きで3時間ほどの時間をくってしまった。話を聞くと、最初の懸垂支点では、滝の落口の手前に下りる感じになるので、落口上のテラスからハーケンを打って、お助けでもう一回懸垂し直して何とか下りたとのこと。沢床まで見えていないのに、最初の残置支点を信用してしまったのが失敗の元であった。ここはもう少し偵察して、沢床が見える位置まで進んでから懸垂に入るべきであったと反省する。

さて、小休止の後、気を取り直して出発。少し進むと本源沢出合に到着(13:00)。本源沢は出合から連瀑帯になっており圧倒されるが、明らかに坂上沢が本流だ。先の懸垂の失敗で時間をロスしてしまったが、時間的には何とかセーフなので、予定通り坂上沢に入る。

坂上沢に入るとすぐ兩岸が斜めに切り立った深いゴルジュとなる。まるで井戸の底にいるような感じだが、全体的に明るいゴルジュなので、圧迫感はない。その先には釜を持った15mの直瀑。ここは木下さん達が行った99年の「すずらん」の記録を参考に、左岸のきれいな凹角を登ることにする。栗原さんが空身で取り付き、ロープを延ばす。最初見た感じでは上部が悪そうだったが、草にスタンス・ホールドがうまく隠れていたようで、スムーズにロープが伸び、40mいっばいで上の灌木に着き、ロープがフィックスされた。後続はザックを背負ってアッセンダーで登る。すっきりした凹角で意外と登りやすかった。ラストの小川君はまた栗原さんのザックをフォローで引き上げながら、上手に登ってくれた。後は灌木帯を辿りながら、その上の滝も一緒に巻き、最後は懸垂無しで沢に下りた(14:30)。かくして本日後半の核心部をスムーズに突破できたので、皆の顔もほころぶ。後は作四郎沢出合先の幕場予定地を目指すだけだ。

この後は深い淵を持った1m滝が二つ続き、いずれもへつり、泳ぎ、シャワーで越えた。その後は水勢の強い2m滝を豪快なシャワーで越え、いくつかの小滝が続いた後、深い淵を持った5m滝にぶつかる。これは登れないので、左岸から高巻く。この高巻きでトップが上に上がり過ぎてしまい、少し時間をロスした。ようやくそこを越えると、17:00、作四郎沢出合に着く。作四郎沢は出合に8m滝がかかっていた。この出合付近は泊まれないので、もう少し先に進むと、すぐ大きな釜を持った5m滝にぶつかった。ここは私が空身で泳いで取り付く。這い上がりのスタンスに苦労したが、何とか突



っ張りで突破できた。さすが盛夏だけあって、

【作四郎沢出合先の5m滝】

この時間に泳いでも全く寒くない！

さらに3m、4m滝を越えると、沢は開け、左岸に幕場適地があったので、ここで幕とする(17:30)。ここは日が暮れてからもアブの襲来に悩まされた。夜になっても気温が高く、焚火を囲むと汗が出てくる。ツェルトを張ったが、中は暑くて寝苦しかった。

【8月14日】晴れ(小川 記)

幕営地から1分でいきなり大きな釜の12m滝。前日、偵察していた小川がアンザイレンして、水流右から取り付き、シャワークライムで左へ抜けて直登。落ち口からは淵が続いている。側壁は立っているが高さはなくミニゴルジュといった感じ。続く5m滝は栗原さんが空身になりボルダームーブで右の凹状部を越え、落ち口に移ってお助けを垂らす。

小滝が2、3続くと、左に屈曲するところに8m滝。右を泳ぎカンテ状を登る。さらに10m滝は右岸を巻き10mの懸垂。しばらくすると開けたゴーロ帯になり正面に続く沢を見ながら歩いていると、左から30m程の滝が落ちている。これが左俣の出合で、うっかりすると通り過ぎてしまいそう。ここで休憩しつつ、栗原さんが空身で左カンテをリード、Fixして降りてくる。滝から先の連瀑帯はとでも行けず、Fixからはそのまま巻くとのこと。Fixを登ってみると、確かに狭いゴルジュに瀑水が飛びかう陰惨な様子が望める。連瀑帯をまとめて巻き、落ち口へ懸垂なしで降りる。ここからは小滝が続く。葛葉川くらいの水流だが、一個一個の釜が深い。

狭い沢床が開けると、見上げるばかりの連瀑5段60m。1段目5m、3段目8mはフリーで通過。2段目15mは栗原さんが左をリード。4段目8mは左へ巻けるそうだが、見てみると登れそうなので小川が空身でリード。水流右のカンテ状をぬるぬる逆層スタンスに注意して越える。5段目15mは大きな釜をもつ直瀑で巻くしかない。ビレイ点からそのまま右を巻く。

この先は樹林がすぐ上まで下りて来ており巻きも易しくなる。途中の10m滝は次のスラブ滝ごと左岸を巻いて降りる。折よく気温が上がり、巻きがおわると浅井さんが嬉しそうに釜に頭まで浸かる。あまりに楽しそうなので僕もマネしてみる。キモチいい！

涼んだところで出発すると、再び沢が開けて連瀑が現れる。今度は5段40mくらいか。ここは大体左をフリーで直登できるが、4段目の右を登るところがいやらしい。この後の5mC.S滝は悪い。水量は少ないのに足がつかない幅1mの淵を泳ぎ、C.Sをシャワーで越える。さらにお助いで後続を引き上げるが小川の肩がらみが悪く、高柳さんが体重をかけた瞬間に体勢を崩してしまう。幸いセルフを取っていて小川が落ちることはなかったが、高柳さんには申し訳なかった。



尽きることなく現れる小滝や釜を越えていくと源頭の霧囲気になるのだが良い幕場がなかなか見つからない。奥の二俣まで行って、結局手前の小さな平地を土木工事して何とか快適に寝ることができた。今日も10時間以上動いたが、星をみんなで見上げているとそんな事も忘れてしまう。

【8月15日】曇り（栗原 記）

本日の核心は「藪漕ぎ」。藪の苦手な私としては、まだまだ核心を越えていないという心境である。いくつかの小滝を登り、水量が減ってくると、いよいよ藪に突入。稜線までは普通の藪漕ぎで7時過ぎ、稜線に到着した。懸案の稜線の藪は、というと、うっすらと踏み跡が見られる程度。幸いなことに稜線は曇っていた。門内岳までは遠いが、意を決して登り始める。二つ峰から少し下

った藤七の池の辺りは、池塘があり、二つ峰の鋭峰も望め、なかなかいい霧囲気である。しかし、そこから尾根沿いに戻ると途端に藪が濃くなった。途中激藪に突っ込んだ時は「今日の目標は門内小屋に下方修正か?」と思ったが、幸い高度を上げるにつれ、藪もわりと歩きやすくなり、約4時間で門内岳に到着した。残念ながら山頂はガスの中で景色が何も見えなかったが、あまり暑くないので藪漕ぎには助かった。門内



【藤七の池より二つ峰の鋭峰を望む】

小屋には「ぶなの会」の人たちがいて、彼らより、飯豊川石井Pの遡行成功を知る。門内小屋で集中するという彼らより一步お先に、飯豊山荘へ下山。結局飯豊山荘に宿泊して、4人で打ち上げを行なった。

今回、力の突出したメンバーがいなかった代わりに、みんなで持てる知恵と力を出し合っただけの遡行となり、とても楽しく、そして成功することができた。安定した天候・寡雪・水量の少なさなど条件に恵まれ、また、同ルートを遡行している木下さんからは詳しいアドバイスをいただいた。ありがたい限りである。安堵感と満足感に包まれた下山後の飯豊山荘での打ち上げビールとご飯のおいしさは、忘れられないであろう。

【グレード】5級 【地図】 杵差岳・二王子岳・飯豊山

【行程】8/12 胎内ヒュッテ (6:00) ~アゲマイノカッチ稜線 (7:05) ~檜の木沢 (7:55) ~センノ木沢 (12:00) ~西俣出合 (14:40) ~BP (15:00)

8/13 c1 (5:50) ~本源沢出合 (13:00) ~作四郎沢出合 (17:00) ~作四郎沢出合先のBP (17:30)

8/14 c2 (5:45) ~二俣 (7:50) ~5段80m滝上 (11:45) ~奥の二俣 (16:00) ~少し

戻ったBP (16:50)

8/15 c3 (5:45) ~ 稜線 (7:05) ~ 二つ峰 (7:45) ~ 門内岳 (11:10) ~ 門内小屋 (11:20) ~ 12:15) ~ 飯豊山荘登山口 (16:10)

